



『共同研究講座』 について



国立大学法人
九州工業大学

理事・副学長(研究・産学連携担当)

三谷 康範



「共同研究講座」とは

企業等から受け入れた資金を活用して大学内に研究組織を設置、大学と企業等の共通の研究課題について、対等な立場で共同して研究を行う制度。

出口を見据えた優れた研究成果が生まれることで、大学として研究活動の更なる充実と産業界への一層の貢献を目指す。

講座とは？

大学内の組織として設置する研究グループ

【これまでの連携方法】

共同研究

- ・ 個別の研究テーマ
- ・ 知的財産は、原則共有
- ・ 基本的には各教員が対応

寄附講座

- ・ 学内組織として、企業の名称を用いた講座を設置
- ・ 大学のリソースを活用
- ・ あくまで「寄附」
⇒企業等に研究成果物の還元なし



H28年度 制度スタート

共同研究講座



共同研究と寄附講座の双方のメリット
⇒研究の促進！

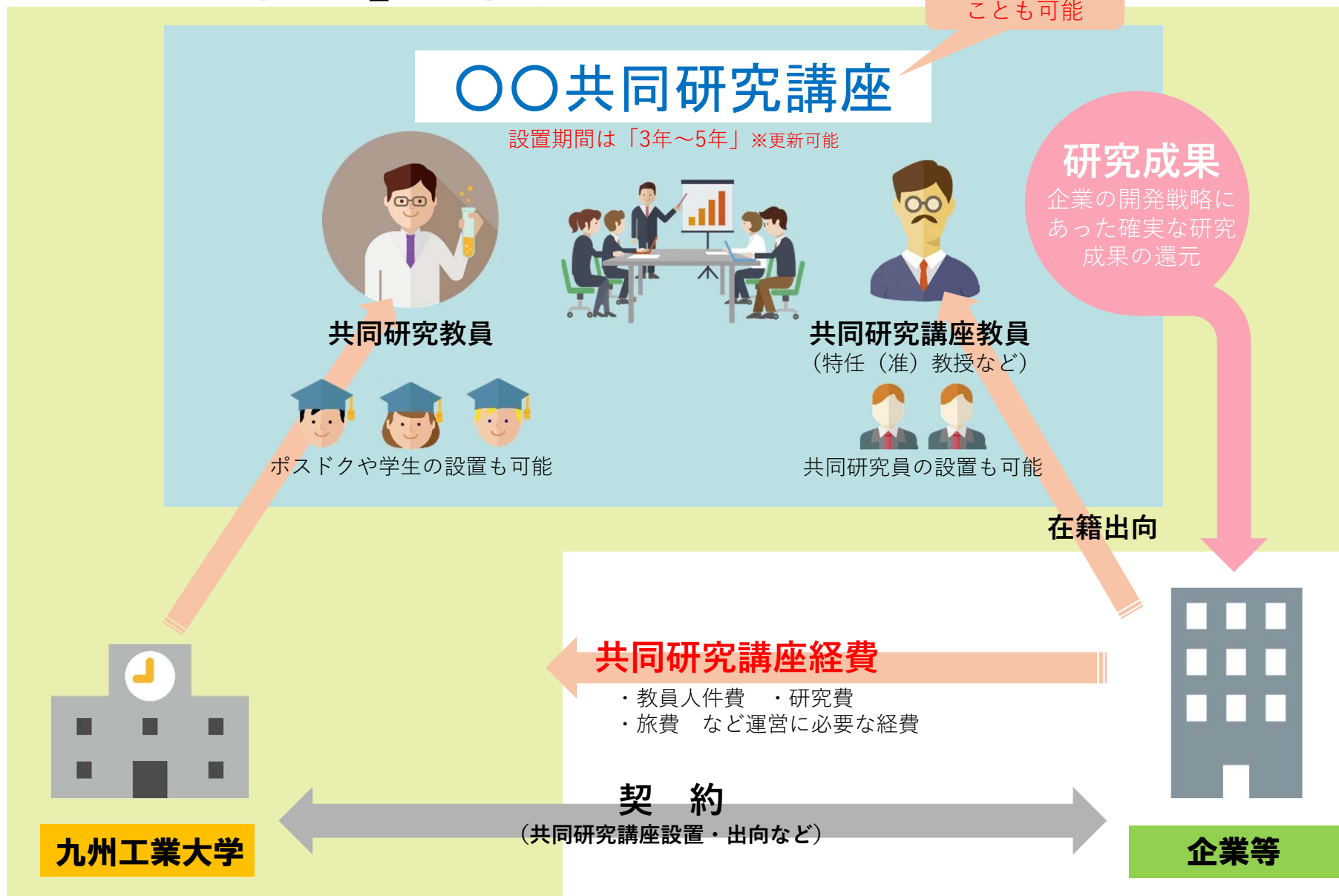


「共同研究講座」のメリット

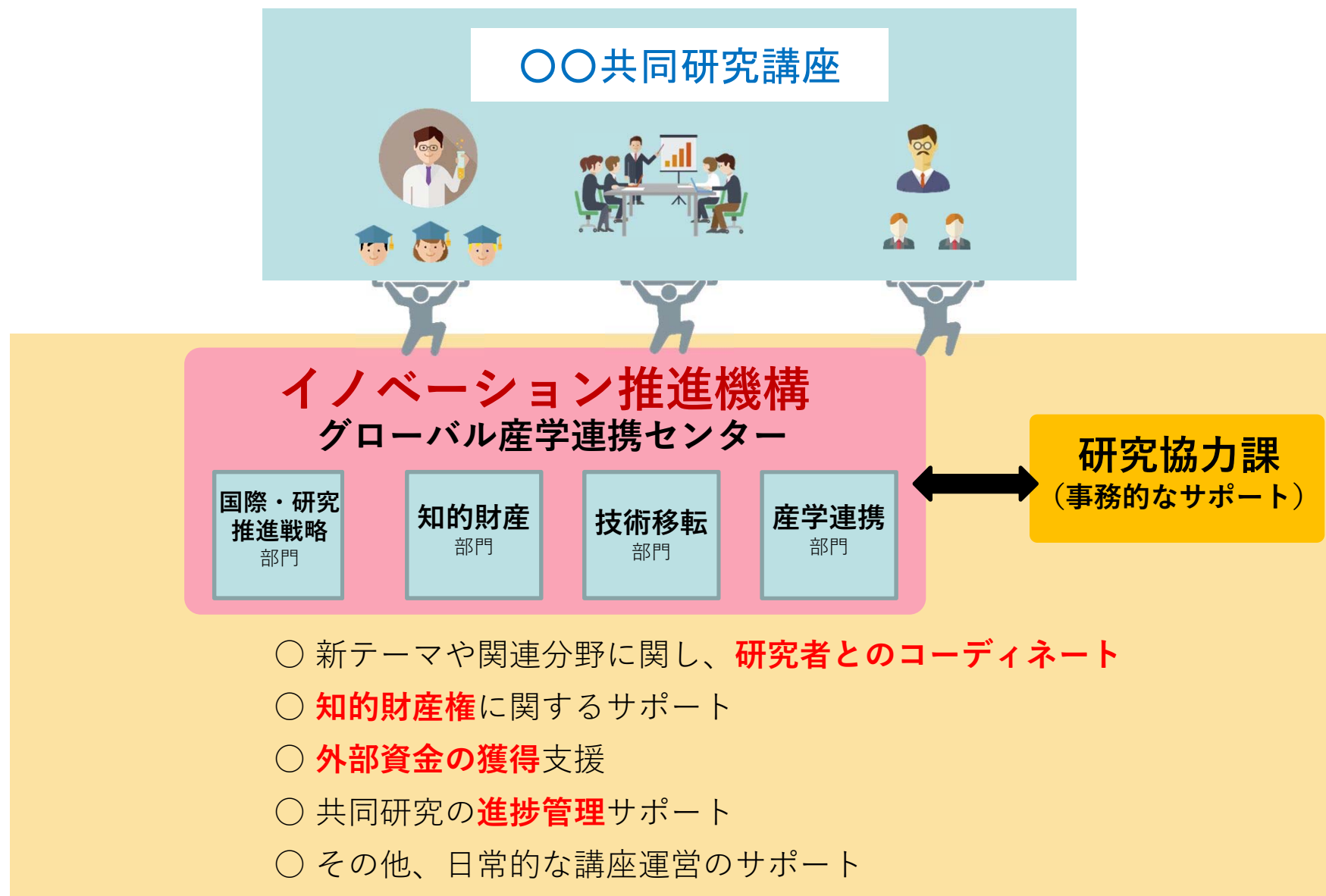
	共同研究	寄附講座	共同研究講座
講座の設置 ⇒ 学内組織として大学のリソースの活用が可能に	×	○	○
経費 ⇒ 知的財産の共有が可能に	共同研究費	寄附金	共同研究費
契約の締結 ⇒ 権利・義務に関して法的拘束力を持つことが可能に	○	×	○
専任教員 ⇒ 安定した研究基盤が構築され着実な研究の実施が可能に	×	○	○
成果の帰属 ⇒ 企業へ研究成果を還元	○	×	○



『共同研究講座』の概要



『共同研究講座』の本学のサポート体制





『共同研究講座』の **企業側** のメリット

① 共同研究が加速！

- 共同研究講座教員の配置により、研究のスピードアップ、効率的な展開が期待
- 企業の中長期的な研究開発戦略にあった確実な研究成果が期待

② 知的財産の共有！

- 原則、知的財産の持ち分を定めた共同出願契約を別途締結した上で、企業側のメリットも十分配慮し特許等の共同出願を行います

③ 大学の組織的サポート

- 定期的に面談を行うなど、大学が組織としてサポート
- 外部資金の獲得支援等も実施
- 講座は大学の組織なので、学内リソース（保有設備等）のフル活用が可能。教員同士の「横のつながり」も期待

④ 大学の研究者としての研究活動

- 大学の研究者という企業と一線を引いた立場で、各種の連携への取り組みが可能
- 本学の様々な知見や研究シーズへのアクセスが容易となり、新たな研究展開が期待

⑤ 学生へのPR効果

- 企業名を冠につけた講座を学内組織として設置するため、学生への企業PR効果（優秀な学生の採用も期待）
- 講座にポスドクや学生を置くことも可能。学生は企業と実施する共同研究に関与

⑥ 派遣研究者のモチベーションアップ

- 派遣研究者（共同研究講座教員、共同研究員）は、原則企業側で人選可能。
- 共同研究講座教員には、特任教授などの役職が付き、共同研究員には客員教授などの称号を付与することができます。

⑦ 共同研究員の学位取得の可能性

- 共同研究員を派遣する場合、研究業績次第で社会人ドクターとして学位取得できる可能性があります。



企業側にも大きなメリット



『共同研究講座』の **大学側** のメリット

① 共同研究費の大型化

○大学内に企業との**研究組織**を設置することで、**共同研究費の大型化**が可能。

② 安定した研究基盤の構築

○**企業**の**研究者**が**大学**に**常駐**することで、実用化を見据えた研究課題に中長期的に取り組むことができ、**安定した研究基盤**が構築され新たな研究展開も期待できます。

③ 社会貢献の促進

○企業のニーズに応えた共同研究講座の成果を企業がサービス・製品化することで、**社会へ研究成果を還元**することができる。

④ 企業ニーズの把握が可能

○企業のニーズを的確に把握することができ、新たな研究テーマの開拓も可能

⑤ 学生の教育効果向上

○企業名の冠を付けた講座を学内に設置することで、**学生の実質的なインターンシップ**による教育効果が期待できる

⑥ 研究分野の拡大

○企業の研究者と教員との日常的な連携が増進されることにより、研究課題に対する研究分野の拡大、部局横断的な連携が期待できる

⑦ 大型外部資金の獲得

○大学が研究の進捗状況を定期的に把握しサポートを行うことで、国家プロジェクトなど大型外部資金の獲得が期待できる。



大学にも大きなメリット



『共同研究講座』の設置実績

H30.5現在

講座名称	申込企業	受入部局	設置期間
SUMCO共同研究講座	(株)SUMCO	生命体工学研究科 (若松)	H29.7～ H32.6 (3年間)
IoTシステム実装研究講座 (パナソニック共同研究講座)	パナソニック(株)	工学研究院 (戸畑)	H29.11～ H32.10 (3年間)
ECCウェルネス共同研究講座	(株)ECC	情報工学研究院 (飯塚)	H30.4～ H33.3 (3年間)
デンソーLean Automation 共同研究講座	(株)デンソー	工学研究院 (戸畑)	H30.4～ H33.3 (3年間)
プラントライフサイクルエンジニアリング (PLE-TAKADA) 講座	(株)高田工業所	生命体工学研究科 (若松)	H30.4～ H33.3 (3年間)



(株)SUMCOとの会談



パナソニック(株)との会談